様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

箕面市小野原地区

令和7年2月

大阪府箕面市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	箕面市	地区名	箕面市小野原地区		面積	178ha
交付期間	令和元年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	478.8百万円	国費率	0.494	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設（耐震性貯水槽）
	提案事業	なし

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	誘導施設（社会福祉移設）	地域の理解を得る取り組みを継続しながら、引き続き整備を目指すため事業を削除	影響あり
	提案事業			
新たに追加した事業	基幹事業	道路（市道小野原豊中線、河原橋、北浦橋）、下水道（公共下水道）、地域生活基盤施設（広場）、高質空間形成施設（荒内谷公園、小野原南1号公園、箕面東公園、市道小野原7号線）	地域防災力の向上、バリアフリー化やライトアップ等による魅力ある出かけやすい空間創出によって多世代の交流を生み出すため追加	影響あり
	提案事業			

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	令和元年度～令和3年度	影響なし
	変　更	令和元年度～令和5年度	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	障害福祉施設（生活介護事業所）の利用者数		人	18885	H29	－	－		－	－	あり／なし	－	
指標2	家庭での災害対策の有無		%	62.4%	H29	67.0%	R5	R1：76.6% R3：79.2%	75.4%	○	あり／なし	整備した広場等で地区防災委員会による防災体験会に市が協力することで、地域住民の防災意識向上や住民同士の交流を創出し、目標達成。	
指標3	公園に行く頻度		%	41.0%	R1	46.0%	R5	R3：54.0%	47.5%	○	あり／なし	バリアフリー化等によって多様な世代が日常生活で出かけやすい魅力ある空間創出により、地域住民の交流の機会を創出し、目標達成。	
指標4	下水道の老朽管の整備率		%	0	R4	100	R5		100	○	あり／なし	地区内の老朽管の管更生工事を行い、地域の安全性が向上し、目標達成。	
指標5	重要橋梁の整備率		%	0	R4	100	R5		100	○	あり／なし	耐震化が必要な地区内の重要橋梁の耐震化工事を行い、地域の安全性が向上し、目標達成。	

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	食料・飲料水の備蓄		%	59.6%	H29			R1：66.7% R3：65.3%	69.0%			耐震性貯水槽の整備による「水」の確保と、防災体験会の実施により、防災意識が向上したもの	
その他の数値指標2	箕面市内の公園に行く頻度が、週に1日以上の割合		%	59.2%	R1			R3：66.6%	70.2%			公園のバリアフリー化によって魅力ある出かけやすい空間を創出したもの	
その他の数値指標3													

4）定性的な効果発現状況

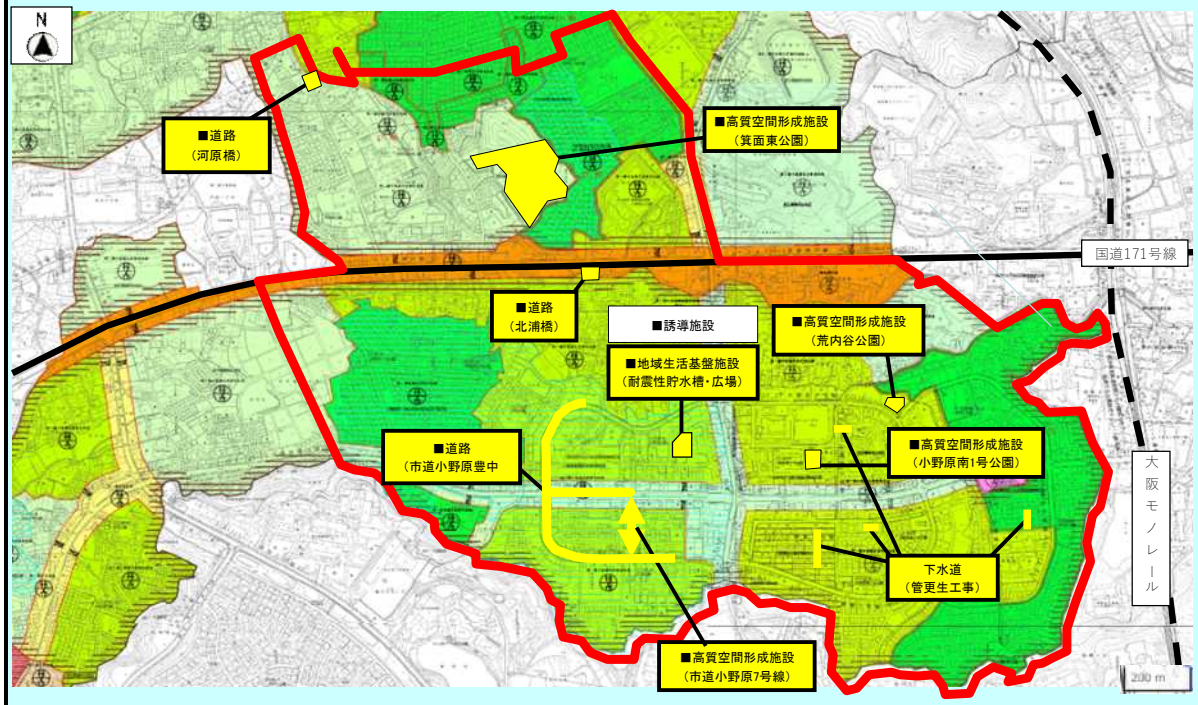
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	市民満足度アンケート調査によるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	○	市民満足度アンケートの定期的な実施により事業の効果を確認する
官民連携による取組	地区防災委員会による防災体験会の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	○	整備された広場等を活用し、地域住民との連携による多彩なイベントの開催
持続的なまちづくり体制の構築	地域住民の集まる場やイベントで広場の活用等の意見交換の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	○	住民同士の交流の創出のための、広場等の活用に関する周知

様式２－２　地区の概要

箕面市小野原地区（大阪府箕面市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
障害者市民のQOL向上と地域内の交流を生むまちづくりを行い、地域で誰もが安心安全に暮らせるまちづくりをめざす。 目標１：障害者市民のQOLの向上並びに障害者基本法に基づく障害者基本計画の推進によるノーマライゼーション・インクルーシブ社会の構築を推進し、障害者市民と地域住民の交流をすすめ、人権意識の向上を図る。 目標２：防災機能の充実による地域の安全安心と意識の向上	障害福祉施設の利用者数	単位：人／年	18,885	（H29年度）	^	^	^	^
	家庭での災害対策の有無	単位：％	62.4%	（H29年度）	67.0%	（R5年度）	75.4%	（R5年度）
	公園に行く頻度	単位：％	41.0%	（R1年度）	46.0%	（R5年度）	47.5%	（R5年度）
	下水道の老朽管の整備率	単位：％	0	（R4年度）	100	（R5年度）	100	（R5年度）
	重要橋梁の整備率	単位：％	0	（R4年度）	100	（R5年度）	100	（R5年度）



■地域生活基盤施設（耐震性貯水槽・広場）

■高質空間形成施設（荒内谷公園）

■高質空間形成施設（小野原南1号公園）

まちの課題の変化	主な施設整備は完了したが、今後はこれらの施設設備等を活用して、ノーマライゼーションの視点のもと、「地域住民の交流」「地域の安全安心と意識の向上」に向けた行政と市民の共同による取組の推進が求められる。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・地域住民の交流の活性化のため、地域住民の集まる場や地域のイベント等での周知啓発や交流の実施により、ノーマライゼーションや防災等の周知啓発に取り組む ・地域の安全安心と意識の向上のため、地域住民との連携による防災に関するイベント等の開催により、整備された広場等の活用など、地域防災力の向上に努める